

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

しかし、熊楠はもつと大きなことを考えていた。オリエンタリズム的偏見を批判したり是正させるぐらいのことでは、おさまりのつかない、もつと大きな知的野心である。彼は西欧に展開されてきた学問が、自分では人類に普遍的な価値をもつと自画自賛しているものの、じつのところは多くの限界づけや排除の原理にもとづいて構成された、虚構の産物であると見抜いていたのである。西欧の学問は、人間の真実のすがたをのぞき込むことをおそれているために、隠蔽や偽善を平気でおかそうとしてきた。

人間の心が狂気や残虐や暴力をひそませているという事実を認めるかわりに、そこでは、狂気も残虐も暴力も、首狩りや人肉食をおこなないシャーマンの狂気にみずからの運命をゆだねている（と考えられていた）、未開人や東洋人や古代人の専有物にしてしまおうとした。そして、西欧化された近代人は、アリストテレス論理にしたがって、矛盾なく合理的思考をおこなない、その能力をもつて、人類全体にスタンダードをしめす地位に立つたのである。合理化を推し進めていく果てに、人類にとって普遍的な価値をもつ社会と思考のすがたが立ちあらわれてくる、という思いこみ

がそこにはある。南方熊楠は西欧で発達をとげてきたものとは異なる土台の上に立つ、「東洋の学」なるものを構築することによって、西欧的普遍をめぐる近代の諸神話を解体しようとしたのである。

南方熊楠の構想した「東洋の学」は、つぎのよ
うな構造をもつ。人類の心は旧石器時代以来少し
も変わっていない。そこには進歩も進化も起こっ
てはいないのである。それゆえ、未開人や古代人
があられないかたちで表現してみせた「野蛮な
心性」は、人類の心のなかから消え去っていない
どころか、いまでも無意識として、生きて活動を続
けている。因果律にもとづく合理的な推論は、そ
のような原初的で不変な心の働きに制限を加えな
ければ、十分に自分の能力を発揮できるようにな
らない。近代科学では、もっぱら思考のその面ば
かりが前面に出ている。しかし生きた宇宙の全体
性をとらえるためには、因果律にもとづく線型的
な思考では不十分である。

(引用先

中沢新一の文章による)

問 傍線部④の理由として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、マークしなさい。

ア 人間の真実のすがたはすばらしいものだが、西洋人は合理的なものしか認めず、東洋文化の価値を認めたくないのので、真実から目をそむけようとしているから

イ 人間の真実のすがたを明らかにすることは、西洋の価値観を破壊しようとする危険な思想に結びつくことになるので、罰則や弾圧を受けることが恐ろしいから

ウ 西欧の学問は、人間の真実を排除したところに成り立つ虚構に過ぎないため、西洋人たちはそれが虚構であるという事に気づかれたくないと考えているから

エ 人間の無意識は原始時代から変わっておらず、近代人・西洋人にも野蛮な心性が隠されているが、それは非常に醜いものなので、できれば正視したくないから

オ 未開人や東洋人の狂気や暴力は、西欧の学問とは全く関係ないものであるのので、それを人間の真実のすがたとして受け容れることはできないと考えているから